



さかな した 魚に舌はあるの

した 舌としての、はたらきはない

さかな した くち なか
魚の舌は、口の中の、ただのでっぱりにすぎません。した うご きんにく はったつ
舌を動かす筋肉もあまり発達して
いなくて、自由に動かさません。あじ し
味を知るはたらきも、ほとんどないようです。うしやにんげん
ウシや人間
のようなした
舌としてのはたらきは、ほとんどしていません。さかな
魚によっては、そのせいかつ てき
生活に適した
舌へんか
た変化しています。たとえば、なかま
サケの仲間には、した は は
舌に歯が生えています。アユは、した
ぜんぼう
前方に、ふね
舟のほのような、ねんまく
ねん膜のもりあ
上がったものがあり、いわ
岩についたソウ類をるい た
食べるの
てき
に適しています。

あじ 味は、いろいろなぶぶん かん 部分で感じる

にんげん した あじ
人間は舌で味をみます。にんげん ばあい あじ かんかくき した
人間の場合、味の感覚器は、舌にしかありません。さかな ばあい
魚の場合は、
あじ かんかくき した
味の感覚器は、舌よりも、くち なか
口の中や、くちびるにあります。さかな しゆるい からだ ひょうめん
魚の種類によっては、体の表面
ひ
の皮ふや、あじ かん
ひげで味を感じるものもいます。しお にが かん
すっぱい、塩からい、苦い、あまい、などを感
じることができます。

にんげん した ウシや人間の舌

した た もの
舌は、食べ物をかきまぜる、あじ し の
味を知る、飲みこむ、おと だ
音を出すなどはたらきをします。にんげん
人間の
した きんにく はったつ じゆう うご
などの舌は、筋肉が発達し、自由に動かさず。あじ し かんかくき
味を知る感覚器もたくさんあります。
した きんにく
舌は、筋肉のかたまりですから、食べ物として、おいしいぶぶん
おいしい部分です。お肉屋さんでは、「タ
ン」のなまえ う
名前で売られています。

した
カエルなど、りょうせいりいじょう どうぶつ
両生類以上の動物が、舌としてのはたらきのある舌をもっています。

(監修・杉浦 宏)

